

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
Ⅰ 文化事業 (1)	<p><b>【評価できる点】</b> 新型コロナウイルスの感染が拡大しているなか、記念館としての文化事業を着実に展開し、資料の収集、保存及び公開を適切に実施している。 1階ロビーを展示場所として活用していることなど展示の工夫を評価したい。大佛と「ねこ」の関連展示は集客の大きな要因となっている。今後も工夫をこらすことで更なる展開を期待できる。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・資料活用の可能性を広げたこと ・浦辺鎮太郎建築にスポットを当てた取り組みをしたこと ・コロナ禍での利用者サービスを検討し実施できたこと ・ビブリオバトル取組み内容の幅が広がったこと</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・引き続き新規性・独自性のある取組みを工夫し継続してもらいたい ・新システム導入に当たっては新たに導入する目的を明確にし活用しやすいものにして下さい ・SNS等 ICT の活用も進めつつ、実際に来館し実物を確認する展示体験の大切さを重視して下さい</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休業を余儀なくされる中、YouTube やInstagramを駆使して、大佛次郎の魅力を伝え続ける取組をされたことは高く評価できると思いました。 展示では、「コンとコトン」展とねこ写真展と同時開催をしたり、謎解きのイベントを盛り込んだりしながら、猫好きや家族連れの集客を図る試みが評価できると思います。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・「手あぶり猫」の体験など、収蔵品の公開、活用を進めている点を評価します。 ・展示場所として、1階ロビーも活用している点を評価します。 ・展示解説動画を You Tube に公開した点を評価します。 ・LINE スタンプ、缶バッジ、ポストカードなど、オリジナルグッズの開発・発売を進めている点を評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・館内全体を展示場所として活用できるような取組みを期待します。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 展示解説動画をYouTubeで公開したり、「敗戦日記」のツイートやInstagramをスタートしたりと、新型コロナウイルス感染拡大を機に、SNS の発信や解説動画の配信に取り組み、積極的に情報発信したことは評価できる。 カーリルのレターパックプロジェクトによる書籍貸し出し等、利用者が使いやすいサービスの提供は評価できる。 秋の和室公開のお香の演出は、来場しないと体験できないもので、「行ってみたい」と思わせる取組みだと評価できる。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 新型コロナウイルス感染拡大で臨時休館を含む大きな影響を受けた形が、今後もしばらく同様の状況が続くことを想定して、SNS の発信や動画配信などで館の存在感を高めていく必要がある。</p>
Ⅱ 文化事業 (2)	<p><b>【評価できる点】</b> 和室利用のための工夫や広報を評価したい。 コロナ禍で利用は制限されているが、ウェディングの撮影等は今後も期待できると思われる。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 大佛作品を後世に継承するために。可能な限り書籍刊行等も含めた取組を進めてもらいたい。 NHK の大河ドラマに大佛の作品を取り上げてもらうため、横浜市と協力して広報していただきたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・Web 利用が進んだこと ・連携先との関係継続できたこと ・情報の発信・提供回数が増加したこと</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・施設利用アンケートはペーパー版も用意しておくべきではないでしょうか ・ホームページはスマートフォン版もあるとよいと思います ・今後も連携先と情報交換を続け仲間意識を醸成して下さい ・リピーターの確保はこの状況下でも課題</p>	<p><b>【評価できる点】</b> テーマ展示との関連イベントである「たてもものウォーキング」が満足度の高い内容であったことを評価します。 初開催されたビブリオバトルがネット開催されたことで、全国の本好きの中高生がつながることが出来たことを評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・Instagramの開始など、多様な SNS を利用した情報発信を進めている点を評価します。 ・アンケート回答方式の変更や、口頭での聞き取りを計画するなど、意見収集に努めている点を評価します。 ・ポスター掲出箇所の増加に努めている点を評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・和室のウェディング撮影利用など、新たな利用ニーズへの働きかけに期待します。 ・SNS 等で発信される情報の継続性ならびに一貫性が保たれることを期待します。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 出版環境の厳しい折、書籍発行に向けて準備が進んでいることは評価できる。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 新型コロナの影響で多くのイベントが中止となった。しばらく同様の状況が続く可能性があるが、これまでに連携した団体との関係維持に努める必要がある。 新型コロナ対策のため発声を伴う活動が難しくなっている。QR コードを活用した YouTube での展示音声ガイドサービスなど、発声を伴わないサービスの充実を図る必要がある。</p>

横浜市大佛次郎記念館 令和2年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
Ⅲ 施設 評価	<p><b>【評価できる点】</b> オリジナル商品の開発、図書の販売など文化的な施設の活用を評価したい。大佛作品の販売を広報して、興味ある読者の手に届けることは大切だと考える。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 記念館の修繕・更新の中長期的な計画を行政と協議していただき、将来の新たな記念館のビジョンを計画していただきたい。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・レターパックプロジェクトを活用し、大佛書籍の普及に努めたこと</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・ティールーム発煙・消防に係わることについて、記念館でもチェックを徹底すること</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 施設利用申し込みをHPからメール申請フォームで行うことが出来るようにすることで、利用者の利便性が高まったと思います。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・アンケートの回収率を高める新たな企画を進めている点を評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> 財団初の試みとなったLINEスタンプの作成など、新しい取り組みは評価できる。オンラインを生かして遠方開催の講座等に積極的に参加していることは評価できる。県市を超えた関係づくりにも生かしたい。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>
Ⅳ 維持 管理	<p><b>【評価できる点】</b> 収支のバランスに配慮（コロナ禍の状況で）していることなどを評価したい。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> 特になし</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・施設の老朽化が進む中、劣化、雨漏り、危険個所の特定等丁寧に行い日常的にはチェックシートを用意して管理を進めるよう検討してください</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 建物の老朽化はあるものの、きめ細やかな施設及び管理がされていることが感じられました。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・LED化への対応を行っている点を評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・記念館の老朽化に対する、総合的な修繕計画の検討を期待します。</p>	<p><b>【評価できる点】</b></p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 併設のティールーム冷蔵庫が老朽化で過熱・発煙し消防対応となっている。施設の老朽化が進んでいるので、収蔵関係の設備も含めて、定期的な点検と更新で事故を防ぎたい。</p>
Ⅴ 収 支	<p><b>【評価できる点】</b></p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・良好な収支バランスを達成できたこと</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・セキュリティを勘案した館内データへのリモートアクセス対応など、利便性や管理コントロールを高めていくことをお勧めします</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休館を余儀なくされる中、計画以上の協賛金及び寄付金を獲得したことを評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b></p>	<p><b>【評価できる点】</b> ・目標以上の企業協賛金および寄付金を獲得している点を評価します。 ・おさがり選書の広告料を目標通りに獲得している点を評価します。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> ・企業協賛の関係が継続することを期待します。</p>	<p><b>【評価できる点】</b> 新型コロナウイルスの影響で来館者が減少し、グッズの売り上げが目標を大きく下回ったが、仕入れの調整で収支バランスを維持したことは評価できる。</p> <p><b>【更なる取組を期待する点】</b> 臨時休館中の在宅勤務がスムーズに行えるよう、安全なサーバアクセスなどを整備する必要がある。臨時休館だけでなく、万が一のスタッフの感染時の備えにもなる。</p>

横浜市大佛次郎記念館 令和2年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
その他	鎌倉雪ノ下の大佛邸の今後の在り方に関心を持ち、可能かつ有効な連携を展開する準備を進めていただきたい。				

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
総括	コロナ禍で大きな制約の中にあって記念館としての文化事業等を十分に展開していることは高く評価したい。	ICTの活用によって、情報発信や収集が進められたことや記念館ならではの動画制作などコロナ禍を補う対応を評価しますので、これからも適切な利用を進めてください。ただし、実物の観覧・閲覧こそ重要であることを大切にされた管理運営の工夫は怠らず、入館者数の確保、安全な施設の利用促進、記念館だからこそできる大佛文学の普及を図って行ってください。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長引く中、SNSや動画配信といった今出来る方法で、大佛次郎及び大佛次郎記念館の魅力を伝え続けようとする姿勢を高く評価します。	臨時休館等、異例の運営を避けられない年度でありながらも、多様なメディアを活用した情報発信など、新たな環境にあわせた取り組みが進んでいることを評価します。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた一年で、来館者数やグッズ売り上げは苦戦したが、これを機にSNS発信や動画配信などに積極的に取り組んだことは評価できる。しばらく感染の影響を受ける可能性があるため、SNSを活用した取り組みで館の存在感を高める努力を続けたい。今後は企画立案の段階でSNSを意識していく必要もある。

I 文化事業目標(1)	評価項目	令和2年度計画		実施状況		実施状況	評価		
		達成指標	目標	実績	チェック		説明	自己評価	行政評価
1 作品、旧蔵資料及び関連資料の収集、保存及び展示公開	資料収集 大佛次郎関連資料の寄贈を随時受付し、情報収集に努め、適切な収集を行う。	■おさらぎ選書「資料収集」欄への掲載	実施	実施		・大佛選書第28集に令和元年度収集資料について記載しました。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集資料の適切な管理を行いました。</li> <li>・収集資料を活用し、記念室内に特設コーナーを設けて展示を行いました。また、テーマ展示にあわせ、旅先バリでの大佛夫妻の姿を紹介する展示を行いました。</li> <li>・収蔵品である絵画1点について修復を行い、テーマ展示「コンとコン」にて展示を行いました。</li> <li>・サロンコンサート開催にあたり、フェーズメーション社の協力を得てSPレコード、LPレコード計6枚の洗浄を行い、良い音質での視聴ができたこと、レコード洗浄に関する知識を得ることができました。</li> <li>・収蔵品である大佛愛用の「手あぶり猫」を、テーマ展示に合わせて実際に炭を入れ、ぬくもりを体験していただく企画が好評でした。収蔵品は貴重なもので、注意を払った上でその価値を来館者と分かち合うことも大事だと知る機会となりました。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料の適切な保存及び公開に継続して取り組むとともに、資料のデータベースの参照のしやすさ等の観点からの収蔵資料の整理を推進していただくことを期待します。</li> <li>・オープンデータについてより汎用性のあるシステムの導入を検討していただき、データの活用につなげることを期待します。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンデータについては導入から年月が経ち、より汎用性のある新システムへのデータベース移行を検討中です。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集、保存及び公開を適切に実施し、目標どおりに業務が遂行されました。貴重な資料の保存と継承に努め、またその展示公開を通じ横浜の文芸文化の発展に寄与したことを評価します。また、レファレンスサービス件数は目標を上回っており、幅広い層に貴重な資料を提供しました。レファレンスサービスの充実により、広く資料や書籍を提供したことを評価します。</li> <li>・ホームページに公開する収蔵資料のデータ数が目標を上回ったことを評価します。平成29年度に構築した整理の枠組みに則り、目標に向けて着実に業務が実行されました。</li> <li>・収蔵品の展示内容は、各テーマ展等と関連づけた内容となっており、来館者に興味を持ってもらえるよう工夫がなされていました。それに加えて本年度は収蔵作品の活用について積極的な取り組みがなされました。手あぶり猫(火鉢)を実際に火鉢として使用するという体験型イベントや、SPレコードを視聴するコンサートなど収蔵品を活用した独自のイベントの開催がありました。</li> <li>また、閲覧室前の展示コーナーにスポット照明をつけるなど、収蔵品の展示環境の改善にも取り組みました。</li> <li>大佛の愛用品や貴重な資料等、多岐にわたる収蔵品を、多くの方に楽しんでいただくための手法を様々に模索し、実践したことで活用の可能性を広げた点を評価します。</li> </ul>	
	資料保存 ・貴重な資料の管理や保護に注力し、自筆原稿等特に貴重な資料の管理に細心の注意を払う。所蔵資料を後世に継承するため、資料の劣化を防ぎ良好な状態を保つ。温湿度管理の徹底と中性紙箱に収める等の方法で資料の保全を行う。	□毎日2回の点検、記録、調整の実施	毎日2回点検、記録、調整	実施	毎日2回	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載通り実施</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による休館中は出勤したスタッフにより資料の点検を行いました。</li> <li>・猪熊弦一郎作の絵画「猫」について、展示出品のため修復を行いました。</li> <li>・フェーズメーションの協力により、所有するSPレコードの洗浄を行いました。</li> <li>・収蔵品「手あぶり猫」(火鉢の一種)を公開し「手あぶり猫体験」を実施しました。</li> </ul>
		■特別書庫内使用の出入庫表への記録	実施	実施					
		□IPMIによる地下書庫の清掃と処置作業	年2回	年2回	B				
		□月1回の資料整理	月1回	月1回	B				
	・専門的な観点からの収蔵資料整理	■必要な資料の修復	実施	実施					
		■収蔵資料の整理	実施	実施					
	■収蔵品展への活用	■収蔵品展への活用	実施	実施					
		■年間を通じて順次展示替えを実施	実施	実施					
	展示公開 (1)常設展(収蔵品展) 「大佛次郎の生涯と作品」にスポットを当てた収蔵品展を展示室で実施	■年3回の企画展に合わせた内容の更新	実施	実施					
		・8月まで鶴見俊輔コーナー、福島行一コーナー、8月より「大佛次郎と猫」、1月より「大佛次郎のバリ紀行 バリ猫編」を展示							
	(2)愛蔵品展示コーナー 大佛次郎の交友関係に焦点をあて、関係する旧蔵資料等を愛蔵品展として記念室前展示コーナーで展示	□展示替	年1回	年1回	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念室から場所を閲覧室前に移し、スポット照明を当てて見やすい展示環境を作りました。</li> <li>・神奈川新聞の長期連載「小さい隅の四季」の挿絵を担った島田四郎の油絵2点を中心に展示しました。</li> </ul>			
	(3)1階ロビー展示 年表パネル・写真パネルの展示	■展示替	随時実施	実施		・ロビーを展示場所として活用しました。			
	資料公開(展示を除く) (1)閲覧室での図書の閲覧	■閲覧室での図書の閲覧の実施	実施	実施		・設置する椅子を減らし、一度手に取った本は一定期間隔離後書棚に戻すルールのもと9月から再開しました。			
(2)「おさらぎ選書」に目録を掲載	■「おさらぎ選書」に収蔵資料の一部を掲載	実施	実施		・おさらぎ選書第28集に1925年から26年の日記と創作ノートの翻刻を掲載				
(3)ホームページに収蔵資料目録を掲載、データベースの充実	□ホームページ上で新規に公表するデータ数	SPLレコード100点以上	171点	A	・所蔵のSPレコード171枚(A/B面合わせ324件)のデータを公開しました。				
(4)レファレンスサービスの充実	□レファレンスサービス提供	年50回以上	62回	A	・記載通り実施				

I 文化事業目標(1)	評価項目	令和2年度計画		実施状況		実施状況	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		説明	自己評価
2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	大佛次郎の作品等に関する調査研究成果の展示、出版、講座・講演等による社会への還元 (1)テーマ展示の実施	□テーマ展示の実施回数	3回	3回	B	・3回実施(R1年度からの継続展示1回を含む)	<b>【成果】</b> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月は臨時休館、6月1日から再開しました。感染症対策を十分にを行い、館内にソーシャルディスタンスの掲示やアルコール消毒・検温を必須とし閲覧中止の上、スタートすることができました。 ・夏休みのイベント中止、外出自粛により来館者が減りましたが、展示解説動画 3本をYouTubeで公開し、ウェブ上で展示を楽しんでいただくことができました。 ・展示解説については、感染防止策として、ホームページからの事前予約制および会議室で人数制限を設けて10月から再開できました。 ・「大佛次郎の住まいをめぐるヒストリー」展では、大佛次郎の住まいというユニークな切り口での展示を行いました。また「浦辺鎮太郎の仕事」展と開催時期を合わせることで、建築愛好家にもアピールできました。 ・「たてもの謎解き」を作成し、館内を巡って謎解きをしながら大佛次郎と記念館について理解を深めてもらいました。謎解き専門会社からの視察もあるほど完成度が高く、折からの謎解きブームもあり、来館の動機付けとなって集客に寄与しました。 ・「コンとコトン」展を、「大佛次郎×ねこ写真展2021」「大佛次郎のバリエーション 猫編」同時開催とし、「全館ねこ尽くし」の趣向で、「ねこ好き」が思わず足を運ぶようになることを狙いました。 ・オリジナルグッズとしてLINEスタンプ8種、新作缶バッジ、猫ポストカード7種を発売しました。 ・人が滞留するフォトスポット設置に代えて、猫動画3種を作成し放映しました。 ・「おさらぎ選書」第28集に日記と創作ノートを公開し翻刻・解題とあわせて掲載しました。333の注を付し、大佛次郎として名を立てる頃の作家の心境が伺える貴重な内容となりました。 ・「おさらぎ選書」第28集「大佛次郎『帰郷』出版70年」 ・「おさらぎ選書」第28集に日記と創作ノートを公開し翻刻・解題とあわせて掲載しました。333の注を付し、大佛次郎として名を立てる頃の作家の心境が伺える貴重な内容となりました。 ・「おさらぎ選書」第28集「大佛次郎『帰郷』出版70年」	
		□観覧者数	13,500人	8,003人	—	・新型コロナウイルス感染症の影響(臨時休館を含む)のため目標に届きませんでした。		
	企画展(テーマ展示)の開催(年3回) (関連講演・講座等の開催、財団運営施設等の主催講座への出張含む) (1)テーマ展示1「コンとコトン 大佛夫人と白猫ものがたり 「誕生! 鞍馬天狗 みんなのHEROができるまで」	□観覧者数	4,900人	1,296人	—	・令和元年度のテーマ展示Ⅲを継続して9月まで開催。 ・新型コロナウイルス感染症の影響(臨時休館を含む)により入館者数が目標に届きませんでした。 ・対面での説明を回避したため、展示解説、建物ミニ・ミニ・トークの実施を見合わせました。		
		■展示解説	各月第2土曜日実施	新型コロナウイルス感染症対策のため中止				
		■<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日実施	新型コロナウイルス感染症対策のため中止				
		□観覧者数	5,100人	3,886人	—	・新型コロナウイルス感染症の影響により目標に届きませんでした。		
	(2)テーマ展示2「大佛次郎と住まいをめぐるヒストリー 鎌倉そして横浜」	■展示解説	各月第2土曜日実施	実施		・新型コロナウイルス感染症対策を取りながら10月からHPからの事前予約制、会議室での展示解説(建物ミニミニトークの内容を含む)を実施しました。		
		■<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日実施	展示解説と合同で実施				
		■「浦辺鎮太郎の仕事展」との連携	実施	実施		・赤レンガ倉庫1号館「浦辺鎮太郎の仕事」展と広報協力およびチケットの相互割引を実施しました		
		□ウォーキングイベント実施	1回	1回	B	・記載通りに実施		
(3)テーマ展示3 大佛次郎と美術(仮) 「コンとコトン 大佛夫人と白猫ものがたり」	□入館者数	4,900人⇒3,500人	2,821人	—	・新型コロナウイルス感染症の影響で、目標に届きませんでした。 ・新型コロナウイルス感染症対策としてHPからの事前予約制、会議室での展示解説を実施しました。 ・建物ミニ・ミニ・トークについては緊急事態宣言発出を受け中止			
	■展示解説	各月第2土曜日実施	実施					
	■<ミニ・トーク～建築の魅力発見～>実施	各月第3土曜日実施	新型コロナウイルス感染症対策のため中止					
	■フォトスポットの設置	実施	内容を変更し実施		・フォトスポットに代え2Fで猫の映像を放映しました。			
7 「おさらぎ選書」の発行	■LINEスタンプ販売	実施	実施		・LINEスタンプ8種を4/4に販売開始し、ステイホーム時期に使っていただけるようにしました。			
	■「おさらぎ選書」第28集「大佛次郎『帰郷』出版70年」	2021.3月発行	3月発行		・記載通りに実施			
8 所蔵資料を用いた書籍・論文等の活用実績 (書籍の閲覧室での公開、受付での販売の実施)	■「鎌倉通信」、「I Love スポーツ」、「生地そのままに」花と語らう」継続販売	実施	実施		・記載通りに実施			
	情報の集積と発信 (1)一般紙誌の掲載につながる話題の提供と積極的な働きかけ。	□テーマ展を中心に記者発表	年4回以上	年9回	A	・展示の広報に加え、特徴的な取り組みについて積極的な広報を行いました。		
9 (2)ウェブ紹介による来館の動機づけ	□WEB媒体に強いPRタイムスによる発信	年5回以上	年9回	A	・展示の広報に加え、特徴的な取り組みについて積極的な広報を行いました。			
	(3)ブログやSNSを用いたタイムリーな発信	■フェイスブック、ツイッターを使ったタイムリーな情報発信	実施	実施		・8月からInstagramをスタートしました。		
		□公式ホームページ情報更新	月3回以上	月6.9回(平均)	A			
		□ツイッターでの発信	月8回	月92回(平均)	A			
		□ブログ更新回数	月5回	月9.6回(平均)	A			
	□フェイスブックでの発信	月5回	月9.6回(平均)	A				
■季節の話題、花、公園、周辺施設・行事への積極的な言及	実施	実施		・記念館と、周辺の魅力的な風景の発信に努めました。				

I 文化事業目標(1)	評価項目	令和2年度計画		実施状況		実施状況	評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		チェック	説明
3 各種文化的行事の実施	各種文化的行事による大佛次郎及び作品の普及啓発 (1)大佛次郎文学をテーマにしたウォーキングイベント	□テーマ展示関連イベント「浦辺鎮太郎 たてももの魅力ウォーキング」開催		年1回	年1回	B	・浦辺設計・西村氏を講師に浦辺が設計した横浜の3館をめぐるウォーキングを開催。	【成果】 ・テーマ展示関連イベント「たてもものウォーキング」は、参加者の100%がアンケートで満足と応える知的好奇心を充たす内容でした。寄付金収入を得て、収支面でのプラス効果もありました。 ・和室公開について、春は臨時休館につき中止しましたが、秋は作品紹介と合わせて和室の風情を楽しんでもらうことができました。昨年に引き続き、お香を焚いて寛いでもらう趣向としました。  【課題】 ・大佛次郎研究会公開発表会が延期となり開催が本年度はありませんでした。今後、会の活動状況を注視し、密に情報共有しながら当館の協力体制を維持します。  【より一層の取組を期待する点】 ・今後の事業展開の検討にあたっては、既存の枠組のみに捉われない切り口の事業を展開する等、引き続き新しい発想で企画・立案をしていただくことを期待します。
		□参加者数	16人⇒定員10人	13人	A			
		□開催数	年1回	年1回	B			
	(2)大佛次郎賞記念講演会 朝日新聞社との共同主催で、大佛次郎賞受賞記念講演会を開催	□参加者数	240人→上限210名	123人	-	・新型コロナウイルス感染症の影響によりR元年度3月から8月に延期開催 ・「鶴見俊輔の考えたこと」講演:黒川創 ・定員50%、市松出席での開催		
		■準備における施設提供および資料作成協力	実施	公開発表会延期				
		■公開發表会の共催、支援	年2回⇒1回実施	公開発表会延期				
	(3)大佛次郎研究会公開発表会	■ちらし作成および館内配布協力	実施	実施		・新型コロナウイルス感染症の影響により5月から11月に公開発表会を延期しましたが、主催者都合により再延期となりました。 ・公開発表会のちらし作成と館内配布、講演会での挟みこみにより協力		
		■和室公開	春・秋に和室を公開し桜・紅葉の景色を来館者を楽しんでもらい、和室の魅力をもPR	年2回	年1回		-	
		□ブログでの発信	4回	5回	A			
	施設及び山手エリアの活性化 (1)和室公開(年2回)	□ツイッターで発信	4回以上	19回	A	・和室公開のようすをブログ、フェイスブック等SNSで紹介		
		■テーマ展示毎の茶亭の展示コーナーの展示替え	(茶亭公開終了)				・鎌倉の大佛茶亭は令和元年8月に公開終了	
		■公開日に会場での書籍・グッズ販売の実施および施設パンフレットの配布	(茶亭公開終了)					
その他の事業 子ども対象事業の実施 (1)第8回ミニ・ビブリオバトル	□開催回数	年1回	3回開催	A	・小学生向けに加え、新たに中高生対象、一般対象のビブリオバトルを開催 ・一般対象は展示に関連する「住」というテーマを設けてツアー・ビブリオと共催、中高生向けはオンライン(ZOOM)で開催しました。			
	□開催回数	年1回、全4回				・新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、主催者である横浜市教育委員会の判断により開催中止		
	□参加者数(各日2回、定員10名)	30人						
(2)夏休み子どもアドベンチャー	□実施回数	年1回			・夏休みの子どもむけイベント「子どもアドベンチャー」は中止になりましたが、「ミュージアムミッション2021」は上ウエブサイトで開催できました。			
	□実施回数	夏休み子どもアドベンチャーとして実施予定						
	□実施回数	年1回						
(3)感想画展等、小中学生無料化に伴う、親子の来館を促す企画の実施	■県博物館協会主催ミュージアム・クイズラリー2020に参加	実施	実施		・新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、特設ウェブサイトでのクイズ出題に開催方法を変更。			
	□開催回数	年1回	年1回	B				
	□入館者数	3,900名	3,729	B				
(4)ミュージアム・ミッションへの参加による来館者増	□開催回数	年1回	年1回	B	・ロビーにて18文字のコメントとともに応募写真331点を展示。 ・来館に加えSNSでの写真紹介と人気投票ができる仕組みを構築しました。 ・大佛次郎撮影の猫写真5点を併せて展示。 ・オリジナルグッズとしてLINEスタンプ8種、新作缶バッジ、猫ポストカード7種を発売。			
	□開催回数	年1回	年1回	B				
	■ねこグッズの販売	実施	実施					
その他の事業 観光客や新規来館者を呼びこむ企画 「大佛次郎×ねこ写真展2021」の実施	□開催回数	年1回	年1回	B	【課題】 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、小学生ビブリオバトルの参加者が伸びず苦戦しました。図書館や学校と幅広い連携を検討します。 ・ねこ写真展についてはリピーターの応募があり定着が進む一方で、企画の新鮮味を失わないよう仕掛けを考える必要があります。			
	□開催回数	年1回	年1回	B				
	■ねこグッズの販売	実施	実施					

II 文化事業目標(2)	評価項目	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		チェック	WO
4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供	記念館の雰囲気や建物の魅力を生かした利用の誘致 (1)茶会の和室利用促進	■茶会利用時のSNS紹介	実施	実施	実施	・新型コロナウイルス感染症の影響により、ガイドラインに則り茶会利用は7月9日まで利用不可、その後の茶会利用も減少しています。 ・クリスマス茶会は、学校側と協議し新型コロナウイルス感染症感染リスクを鑑み開催を見合わせました。	-	【成果】 ・家族単位のウェディング撮影の和室利用が2件あり、今後の展開に期待が持てる利用がありました。  【課題】 ・茶会について「飲食・会話を伴う利用」に該当しガイドライン上利用の制限対象となり、上半期は利用がなく、その状況の中で茶会利用の広報ができませんでした。新型コロナウイルス感染症予防対策に配慮しつつ、引き続き和室利用の開拓と広報に努めていきます。  ・ミニ・ビプリオバトル校内決戦会場を提供していましたが、学校判断により開催なしとなりました。  ・主催者である大佛次郎研究会の判断により延期のち再延期となっています。  ・レファレンスの要望に対応  ・記載通りに実施  ・共催での和菓子教室開催、てあぶり猫実演に会議室を使用 ・新型コロナウイルス感染症感染リスクを避けるため、展示解説に会議室を使用  ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月まで茶道具等感染リスクのある一部の附帯設備の貸出を取りやめました。  ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月からウェブアンケートを導入  ・記載通りに実施  ・記載通りに実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響で週末のみの変則営業となりましたが、営業時間の情報を当館HPやツイッターで随時告知しました。
		■期間限定の半額キャンペーン	実施⇒実施せず	中止	中止			
		□クリスマス茶会実施	年1回	中止	-			
	会議室、和室の利用促進 建物の魅力を活かした撮影利用や、展示利用等を誘致します (1)ウェディング撮影	■ウェディング撮影を近隣のホテルや結婚式場と連携し誘致	実施	実施	実施	・新型コロナウイルス感染症の影響により、撮影利用も減少しましたが、和室での家族単位でのウェディング撮影があり、新しい利用につながる兆しとなっています。 ・ドレス撮影については実施なし	-	
		■ホームページでの広報、SNSによる発信	実施	実施	実施			
	(2)ドレス撮影	□ドレス撮影会・着物撮影等商業撮影の利用	年5回以上	8回	A			
	(3)学校等の利用促進 ボランティアへの会議室の減免提供、小学生ミニ・ビプリオバトル参加校への会場としてのサロン提供	□小学校内ミニ・ビプリオバトルの会場提供	1校	学校事情で中止	-			
	(4)研究者団体への場の提供 大佛次郎研究会、フランス経済史研究会の活動支援	■大佛次郎研究会発表会を共催	実施	主催者都合で延期 R2開催なし				
	(5)市民文化団体への場の提供 天皇の世紀を読む会の活動支援	■レファレンスへの協力	実施	実施				
	(6)その他	■撮影等、特徴ある利用実績を紹介し、施設利用の提案とする	実施	実施				
		■主催または共催で、会議室の連続利用につながる事業の開催	実施	実施				
	レポート利用に向けた方策 (1)和室、会議室での附帯設備導入等による利便性向上	■附帯設備について積極広報	実施	新型コロナウイルス感染症により附帯設備一部貸出取りやめ				
	(2)会議室での自主事業の実施(簡易的な展示)	□「大佛次郎×ねこ写真展2021」実施	1回⇒ロビー展示に	1回	B			
	(3)会議室の利用者の意見を聞き設備面・サービス内容等を改善。	■アンケート箱を設置	実施	実施				
	(4)ホームページでの情報提供。	■ホームページの「和室・会議室空き状況」ページの円滑な運用	実施	実施				
	ティールーム「霧笛」との連携 (1)相互割引の継続実施及び団体利用客への霧笛紹介。	■優待券を利用した相互割引の継続	実施	実施				
■団体客や貸館利用者へティールームの利用の呼びかけ		実施	実施					
(2)記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの継続販売。		■夏季限定大佛フラッペの提供	実施	実施				
(3)広報協力 当館広報物への情報掲載等の実施 企画との連携メニュー等の相互の活性化に向けた協議	■ホームページで情報の継続掲載	実施	実施					

II 文化事業目標(2)	評価項目	R2年度計画		実施状況		実施状況	評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		チェック	説明
5 市民協働及び地域とのネットワーク構築	17 近隣教育機関との連携	■チラシ配布、ポスター掲示等で日常的な協力関係を構築。小学生ミニ・ビブリオバトル等の子ども対象事業への参加を呼びかけ。		実施	実施		記載通りに実施	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の学校に加え、中高生ビブリオバトル募集に際し浦和第一女子高・東京都立南多摩中等教育学校・神奈川県私立高等学校図書部会メーリングリストの協力を得ました。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で「人が集うイベント」が相次いで中止になりましたが、館独自のイベントとしてハロウィン装飾・クリスマス装飾を実施しました。</li> </ul> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため多くのイベントを見合わせる事となりました。イベント等で連携した団体と関係を継続し、状況に合わせた活動や企画の検討を行うことを期待します。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポスター設置については、展示に応じて掲示先を増やすことに努めます。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人横浜シティガイド協会との活動は観光需要の低下により実現できませんでしたが、ビブリオバトル開催に際し任意団体であるツアー・ビブリオとの共催が叶いました。</li> </ul>
	近隣施設等との連携 (1) 横浜山手芸術祭への参加	□横浜山手西洋館ユースギャラリーへ参加し北方小学校児童作品展示	年1回→中止	中止	-	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より主催者である横浜市緑の協会の判断により中止		
	18 (2) 山手西洋館(横浜市緑の協会)との連携	□横浜山手西洋館ハロウィンウォークへの参加	年1回→中止	中止	-	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より主催者である横浜市緑の協会の判断により中止 ・当館独自にハロウィン時期とクリスマス時期に季節感のある室内装飾を実施		
		□山手西洋館クリスマスイルミネーションとの連携	年1回⇒中止	中止	-			
		□山手通信への情報掲載	年6回	年5回	-	記載通りに実施		
	(3) 県立神奈川近代文学館との連携	■観覧者の相互割引実施	実施	実施		・記載通りに実施 ・神奈川県の方針により、神奈川近代文学館は2/29-6/13、1/7-3/19新型コロナウイルス感染症による臨時休館 ・11/23開催の「たてもものウォーキング」では、神奈川近代文学館内の開放のほか招待券の提供がありました。		
		■ウォーキングイベントでの連携	実施	実施				
	近隣商店街等との連携 (1) 元町商店街、ホテルニューグランド、霧笛楼、美濃屋あられ製造本舗、横浜高速鉄道等との連携	■ねこ写真展賞品、クリスマス茶会協賛提供を依頼	実施	実施		・記載通りに実施(クリスマス茶会は中止)		
	(2) ポンパドウルに、大佛次郎記念館活性化プロジェクトから生まれた商品の販売継続を働きかける。	■冬季限定「ピコリキュールのごほうびサバラン」継続販売を働きかけ	実施	実施		・ポンパドウルに働きかけを行い、年明けから大佛次郎が好きなお酒を使った「ピコリキュールのごほうびサバラン」元町本店で販売		
	(3) 近隣ショップにポスターの相互掲示を依頼	■優待券配布・ポスター、ちらし相互掲示	実施	実施		記載通りに実施		
		□ポスター掲示	2店舗	4店舗	A	記載通りに実施		
	(4) 横浜高速鉄道(株)との連携	■元町・中華街駅構内ポスター掲示	実施	実施		記載通りに実施 ・横浜高速鉄道の1日乗車券との相互割引については提案しましたが実施に至りませんでした。		
		■1日乗車券提示での割引導入働きかけ	実施	働きかけ実施				
		■交通局みなとぶらりチケットの団体割引適用	実施	実施				
	(5) ホテルニューグランドとの連携 大佛次郎ゆかりの「天狗の間」宿泊プランの継続を働きかける。	■宿泊プランの継続を働きかけ	実施	実施		記載通りに実施		
20 研究者団体の文化活動への場の提供	■大佛次郎研究会及びフランス経済史研究会との施設及び資料利用に関する協定継続	実施	実施		記載通りに実施			
21 財団施設との連携	■財団他施設と連携しサロンコンサートを開催	実施	実施		記載通りに実施 ・横浜みなとみらいホール連携事業「文豪のお暇」: 大佛所蔵のSP/LPレコードの視聴とチェロの演奏			
市民協働 (1) NPO法人横浜シティガイド協会への働きかけ	■相互協力契約の継続	実施	実施		・新型コロナウイルス感染症の影響により具体的な活動の実施には至りませんでした。			
	■ちらしの定期送付	実施	実施					
22 (2) 記念館ボランティア組織編制 展示作業、イベント開催のお手伝い依頼	■ボランティア組織の素案構築	実施	実施		・ボランティア制度について要領を策定しました。			

Ⅱ文化事業目標(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
6 広報・プロモーション活動等の推進	広報よこはま、地域のタウン誌、新聞紙面等による広報活動を継続。またSNS等を活用したプロモーション活動を行う。 (1)記念館年間スケジュールチラシ(紙)の配布	□4か月スケジュール発行 発行回数	年3回 各回8,000枚	年2回 各回8,000枚	—	・記載通りに実施 ・イベントスケジュールについては新型コロナウイルス感染症で臨時休館があり、事業実施が変更になったため、2回の発行となりました。 ・緑の協会発行の「山手通信」について、新型コロナウイルス感染症の影響で6-7月号が発行中止になりました。	<b>【成果】</b> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、紙媒体については掲出を控える傾向があり、展示ごとに必要な枚数を調整し印刷するようにしました。 ・展示だけでなく、特徴的な取組については記者発表を行いました。  <b>【評価できる点】</b> ・チラシの配架など広報活動を積極的に推進したことを評価します。連携先や近隣の学校や企業に広報を行うことで、事業の連携先の拡大や多様性のある企画立案につながりました。 ・ブログやSNSを通じた情報発信が活発に行われ、フォロワー数が大幅に増加しました。発信の手法なども研究し、より多くの方に記念館の情報が届くよう工夫を凝らしました。ケーブルテレビ等のテレビ局からの情報発信が目標を達成したこと等、積極的な広報及びプロモーション活動を推進したことを評価します。 ・コロナ禍での展示観覧としてYouTubeに展示解説動画をアップするなど来館が難しい利用者に対する事業も実施したことを評価します。  <b>【より一層の取組を期待する点】</b> ・QRコードを活用したYouTubeでの展示の音声ガイドサービスを継続することは、利用者サービス向上に資すると考えられます。継続にあたっての課題を整理する等、手法を検討することを期待します。 ・これまで広報の主流であった紙媒体については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応を始め、様々な要因により需要が減っていくことが想定されます。これまで培ってきたブログやSNSといったツールの活用のノウハウをより積極的にプロモーション活動に活かすことを期待します。	
	(2)山手通信(紙)へのイベント情報提供	□情報提供(再掲)	年6回	年5回	—			
	(3)イベントちらし(紙)の作成	□イベントちらしの作成	年3回	年9回	A			
	(4)ヨコハマ・アートナビ(紙)への掲載	□WEB版ヨコハマ・アートナビへの情報掲載	年3回	年5回	A			
	(5)新聞等掲載 市政記者発表、広報よこはま中区版への情報掲載 依頼、タウンニュース中区・西区版への情報提供の実施	□テーマ展・ねこ写真展等の記者発表	年4回以上	年9回	A			
	24 大佛次郎及び記念館紹介ビデオの放映	■紹介ビデオをロビーで着席鑑賞	実施	実施		・記載通りに実施		
	25 ホームページを通じた情報発信及びSNS、ITを活用したプロモーションの実施 (ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、ヨコハマ・アートナビ、ヨコハマ・コードアートナビ等を活用)	□ホームページ情報発信(再掲) □ブログ・フェイスブック発信(再掲) □ツイッター発信(再掲)	月3回以上 月5回 月5回	月6.9回(平均) 月9.6回(平均) 月9.2回(平均)	A A A	・来館を控える層を意識し、継続的な情報発信を行いました。 ・ツイッターについては、ねこ写真展の応募写真を1日4件掲載したこともあり、投稿数が大幅増となっています。		
26 CATV等での情報発信	□TV・ラジオからの情報発信	年3回以上	年8回	A				
27 その他の工夫	■テーマ展示でYouTubeを利用した音声ガイドを提供(再掲)	実施	実施		・展示場所からアクセスして聞く形に代えて、休館中のステイホームの方に見てもらおうための展示解説動画3本と、ブログで解説連載を展開しました。			
						<b>【課題】</b> ・音声や映像媒体の活用については、コロナ禍で多くの文化施設がさまざまな形での映像配信に取り組んでいますが、当館でも予算や手法を検討し、活用の余地があると感じています。		

II 文化事業目標(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
7 後世に継承するための記念館の活性化	大佛次郎作品の刊行協力等、大佛作品を読める環境整備 (1)既刊の販売協力	■「500匹と暮らした文豪 大佛次郎と猫」をはじめ自著や関連書籍の販売協力が普及	実施	実施		記載通りに実施 ・未刊行資料の発行について、監修者と調整を始めました。	【成果】 ・令和6年に予定する書籍発行に向けて、研究者に監修を依頼しました。  【評価できる点】 ・施設での大佛作品の販売を継続するとともに、未刊行資料の発行の調整を通じて、大佛作品を後世に伝え、作品を読んでもいただける環境の維持に努めた点を評価します。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、10月に展示解説を再開しました。状況に合わせて、柔軟に対応したことを評価します。  【より一層の取組を期待する点】 ・今後も大佛作品の後世への継承という観点からの取組を継続して行ってください。	【課題】 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、団体説明、展示解説を控えましたが、10月から、開催方法を工夫し展示解説を実施しましたが、団体説明についても感染予防対策をとった上で、安心して説明を受けていただけるような方法を検討します。
	(2)その他	■単行本未収録の作品の刊行や絶版本の復刊を出版への働きかけ ■テーマ展示に合わせてブックレットの発行、販売(再掲)	実施	実施				
	フランス関連資料の活用 (1)企画展や常設展内展示コーナー等での展示	■収蔵品展で展示活用	実施	実施	・収蔵品展の猫コーナーで洋書の猫の本14冊を通年展示しています ・「コンとコトン」展に合わせて展示を実施しました。			
	(2)横浜フランス月間への参加	■収蔵品の中からフランス関連資料を紹介するミニ展示「大佛次郎とパリにゃん」開催	実施⇒フランス月間中止のため開催時期を変更して実施	実施		・例年6月に開催される「横浜フランス月間」に向けた企画「大佛次郎のバリ紀行〜バリ猫編〜」について、フランス月間中止を受け、「コンとコトン」展に合わせて展示しました。		
	若者の来館促進 スタンプラリー等参加	■ミュージアムミッション2020・ハロウィンウォーク2020への参加	実施	一部実施	・ミュージアムミッション2020 WEB開催(再掲) ・ハロウィンウォーク2020 中止(再掲)			
	「大佛次郎記念館活性化プロジェクト」成果継承	■ボンバドウル、ティールーム霧笛での企画商品販売継続(再掲)	実施	実施	・記載通りに実施			
		■ねこ写真展期間の「ねこからの挑戦状」配布(追加実施)⇒「すまい展」期間にたてもの謎解き「ねこからの招待状」実施	実施	実施	・アイデアを継承し「たてもの謎解き」として展示の関連イベントとして実施			
	子どもたちが記念館に集う取組(再掲)	「3 各種文化的事業の実施」及び「5 市民協働及び地域とのネットワーク構築」記載内容と同じ(再掲)				・クイズのリーフレット「ねこからの挑戦状」のアイデアを継承、拡充し「たてもの謎解き」として展示の関連イベントとして実施し、集客に寄与しました。		
	記念館オリジナルキャラクター「くらまくん」の活用による記念館のイメージアップ	■「鞍馬天狗シリーズ」復刊を記念した缶バッジ配布キャンペーンの継続	実施	実施	・記載通りに実施			
		■イベント参加者にくらまくん絵葉書または缶バッジプレゼント⇒オリジナルねこ缶バッジプレゼント	実施	実施	・「住まい」展で謎解き挑戦者へ、オリジナル猫缶バッジプレゼント ・「コンとコトン」展でSNSフォローでオリジナル「コトンちゃん」缶バッジプレゼント			
スタッフの展示案内によるリピーターの確保	□団体入館者に対する解説	年20回以上	年6回	-	・新型コロナウイルス感染症予防のため、発声を伴う行為をガイドラインに沿って中止または実施を控えたため、目標より少ない回数となっています。			
	□テーマ展示のミニ解説実施	年9回以上	年6回	-				
	□建物に関するミニ解説実施	年9回以上	年3回	-				
愛猫家の側面に着目した、猫を活かした企画展開(再掲)	「3各種文化的事業の実施」記載内容と同			・記載通りに実施(再掲)				
収入増及び健全な財務体質の実現に向け、個別事業評価システムによる自己評価、文学懇話会(会員構成:メディア・有識者等・市)の意見、年次評価等を活用したPDCAサイクルの構築	■個別事業評価システムによる自己評価の実施(計画書に記載なし)	随時実施	随時実施	・記載通りに実施				
	■文学懇話会の開催	実施	実施					
	■年次評価の実施(自己評価、行政評価、外部評価)	実施	実施					

令和2年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅲ施設運営目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価		
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価	
1 観覧及び市民・市民団体の教養活動のための施設の提供	1 観覧施設の提供	■大きな事故なく開館	実施	実施		・利用率は会議室・和室とも新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館・集会控えがあり、目標数値に届いていません。 ・併設のティールーム冷蔵庫が老朽化により過熱・発煙し消防対応となりました。	-	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ご利用控えがあったものの、ユニークな利用については許可を得てブログやSNSで紹介しました。 ・来館者アンケートおよび施設利用者アンケートを、紙配布に代えてウェブアンケートとしました。	【評価できる点】 ・施設利用の提案の一環として施設利用の様子をブログで公開する等新しい手法で情報提供を行いました。リピーターの定着を図ったほか、撮影利用等にも対応し、貸室の利用率向上に工夫を凝らしたことを評価します。 ・カーリルのレターパックプロジェクトを利用し、大佛著書の無料貸出を行いました。大佛書籍を手に入る機会を提供するとともに、感染症対策としても有効な事業を実施しました。 ・個人情報の漏えい件数がゼロ件など、コンプライアンスをはじめとする組織運営もしっかりとなされています。
	2 和室及び会議室の積極的な貸出、レファレンス対応(広報協力、感想・ご意見の収集、ホームページでの空き状況情報提供サービス等によるリピート利用促進等)	□目標利用率 和室	40%(日)	19.9%	-				
	□目標利用率 会議室	40%(日)	17.2%	-					
3 入館者数の増		□年間入館者数	20,200人	10,627人	-		-	【課題】 ・アンケート回収率を向上させ、より多くの意見を運営に反映させることが課題です。	
		□一日の入館者数	68人	36人	-				
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	4 施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページへの撮影等の利用案内の掲載等)	■メルマガ・SNSで利用案内、利用例紹介	実施	実施		・アフターコロナを見込み、展示、茶会、会食などの特徴的なご利用については許可を得たうえでブログで紹介しました。		【成果】 ・施設利用に関するアンケート回収率を高めるために、回答者に粗品をプレゼントする新企画をはじめました。  【課題】 ・和室・会議室の利用率が目標に届きませんでした。臨時休館や新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、感染症対策を具体的に示すことで安心してご利用いただけるようなPRや、コロナ禍だからこそその利用の提案をさらに行っていく必要があります。	【より一層の取組を期待する点】 ・利用者サービス向上の視点から、きめ細やかな対応の継続及び改善検討の視点を持ち続けることを期待します。
	5 アンケート等による利用者ニーズの把握(和室無料公開の継続、会議室の学校関係の利用の促進、利用者へのアンケート及びインタビュー調査の実施等)	■来場者に対するアンケートを実施。月毎の集計を行い、館内スタッフに迅速なフィードバックを実施 ■改善事例をホームページ、SNS等で情報発信 ■アンケート回収率を上げるためのキャンペーン実施	実施	実施		・記載通りに実施 ・新型コロナウイルス感染症防止のため来場者へのアンケートを紙と鉛筆に代えて、ウェブアンケートに切り替えました。 ・設備更新の実績をSNSで紹介しました。 ・施設利用に関するアンケートをウェブで実施し(再掲)、アンケート回収率を高めるために回答者に粗品をプレゼントしました。			
	6 要望・苦情への対応(要望・苦情の館内・財団・市との適切な共有と対応)	■即時対応 ■館内・財団・市と共有、協議	実施	実施					
	7 案内・説明表示の外国語表記対応	■英語版案内パンフレットリニューアル配布 ■1Fロビーの英語表記の継続	実施	実施		・記載の通りに実施			
	8 展示解説や団体向け解説を実施(再掲)	□団体入館者に対する解説(再掲) ■お客様ニーズに則した解説	年20回以上	年6回	-	・発声の伴う行為は、横浜市ガイドラインに沿って中止および積極開催を控えたため回数が少なくなっています。(再掲) ・大人の団体と中学生の団体とで説明の仕方を使い分け、わかりやすさを心掛けました。			
	9 Wi-Fiアクセスポイントの適切な運用	■館内Wi-Fiの利用	実施	実施		・記載通りに実施			
	10 電子マネー決済の適切な運用	■キャッシュレス決済の推進	実施	実施		・記載通りに実施			
	11 施設の魅力を向上	■調度品類を必要に応じ修繕・更新	随時実施	必要に応じ実施		・記載通りに実施			
	12 オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施)	□オリジナルグッズ新規開発 ■「大佛次郎と猫」をPOPで宣伝 ■一般の書店で手に入りにくい図書類を販売 ■魅力的なディスプレイの工夫	1アイテム以上	3アイテム	A	・オリジナル商品は3アイテム(LINEスタンプ「おさらぎさん家の白猫コトちゃん」8種、新作缶バッジ、猫ポストカード7種)開発しました。LINEスタンプ8種の作成、販売は、財団施設でも初の試みとなりました。 ・カーリルのレターパックプロジェクトを活用し、大佛著作の送料無料で通販および無料貸本を実施しました。			
	13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組(大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映)	■愛用品展示、オリジナルグッズ紹介	実施	実施		・記載通りに実施			

Ⅲ施設運営目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
3 組織的な施設運営	14 適切な運営組織体制と人材の配置(館長1、事務職員2、研究員2、研究室補助員1、特任研究員1、専門員1、カルチャースタッフ4)	□館内会議(研究室会議、合同会議、企画会議)	研究室会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回	研究室会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回	B	・記載通りに実施 ・臨時休館中は受付スタッフも交えたオンライン開催	【成果】 ・コロナ禍でオンライン開催される研修や相談会が増えたことで、遠方開催を含む様々な講座(SPLコード活用座談会、九州国立博物館IPMの個別相談会、ビブリオバトルシンポジウムなど)に参加することができ、知見を得ました。	(評価は前ページに記載)
	15 文学館の専門性、公共の施設として適切な人員を配置。職員の能力向上のため、研修を実施。(OJT、MBO、財団・市実施の研修、外部研修への参加)	■業務として必要な専門知識向上や資格取得のため、費用対効果も見極めながら、積極的な受講・取得を推進	実施	実施		・記載通りに実施 ・教育プラットフォーム等、アウトリーチ事業の参考に、図書館を劇場に見立てて行う「テアトル図書館」の視察を行いました。		
	16 事務室、研究室共通業務に必要な資格取得に向けたバックアップの実施	■全国文学館協議会会議に参加し、文学館同士の情報共有・連携強化の実施	配置	配置		・記載通りに実施		
	17 個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施 (1)個人情報保護 個人情報取扱マニュアルの作成と年1回以上の改定・見直し及び職場内研修の実施、個人情報の適切な取り扱いによる事故防止	□個人情報漏洩などに関する事故	0件	0件	B			
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	(2)情報公開	■業務計画書・報告書、収支報告書のホームページでの公開を実施し、PDFのダウンロード可能に	実施	実施		・記載通りに実施		
	(3)人権尊重 横浜市主催の人権講演会への職員の参加、職場内研修の実施、受付職員を対象とした接客研修の毎年度の実施	□人権研修への参加	年1回	年1回	B	・記載通りに実施		
	(4)省エネルギー・節電 節電への取組、クールビズ及びウォームビズの実施と来館者への取組周知	■節電、節水の意識	実施	実施		・記載通りに実施		
	(5)ごみ 「ヨコハマ3R夢プラン」に基づく取組の実施、ごみの軽減化の取組、印刷・コピーの適切な節制、文書の適切な処分	■印刷・コピーの裏紙利用による古紙の減量化 ■裏紙の適切な利用と裏紙ストック箱の設置 ■ゴミ減量を視野にいれた展示方法の模索	実施 実施 実施	実施 実施 実施				
	(6)市内中小企業優先発注 特別な専門性が必要な契約等を除く発注の市内中小企業への優先	■特別な専門性が必要な契約等を除く発注についての市内中小企業への発注への努力	実施	実施				

IV維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価		
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施		・記載通りに実施 ・建物だけでなく設備・備品についても劣化が生じたものについては更新を行っています。 ・蛍光灯の生産中止を受け、ギャラリー廊下・展示ケース・閲覧室のLED化への取り換え工事を実施しました。 ・11月に2F書庫照明に漏電が生じたため、照明のLED化の緊急工事を実施しました。 ・9月にティールームの業務用冷蔵庫コンプレッサーから発煙があり、危険があったため更新を行いました。 ・横浜市により2Fエルミン窓回り補修工事が施工され、雨漏りへの対応ができました。 ・使用していない小型運搬機のPCB調査を行い、該当なしを確認しました。	【成果】 ・建物、設備の老朽化した箇所について修繕・更新を行いました。  【課題】 ・館建設から40年を超え、建物・設備の突発的な不具合が想定されるため、日常の目配りや予防的措置を常に考えるべき状況です。	【評価できる点】 ・1年を通じて、施設及び設備のきめ細やかな管理を行い、適切に業務を遂行できました。  【より一層の取組を期待する点】 ・特筆すべき事項なし。引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。	
		■建設40年以上経過し、建物、設備、備品に劣化が進んでいるので、安全および収蔵資料の保全を優先した修繕を検討	実施	実施					
		■必要に応じ市と協議	実施	実施					
	2 保守点検、備品管理、環境維持の実施 (1)備品の物品管理簿での管理、年度末の棚卸の実施等の実施による適切な管理  (2)消耗品の適切な管理・購入による経費節減と発注事務の軽減	□物品管理簿と現品との照合による棚卸	年1回	年1回	B				・記載通りに実施 ・収蔵資料 猪熊弦一郎画「猫」の修復(再掲)
		■在庫管理	実施	実施					
		□毎日2回の点検、記録、調整の実施 ■特別書庫内使用の出入庫表への記録	毎日2回	毎日2回	B				
			■資料修復実施	実施	実施				
	(3)大佛次郎遺品類及び関係資料の適切な管理 (日常的な確認・点検の実施)	□IPMIによる環境管理(再掲)	年2回	年2回	B				
		□月1回の資料整理	月1回	月1回	B				
	(4)施設設備の不具合早期発見のための自主点検の実施	■資料修復実施	実施	実施					
□不具合早期発見のため自主点検		月1回	月1回	B					
3 適切な環境維持管理業務の実施 (1)業務の基準の遵守及び見回りによる清掃の即時対応の実施  (2)公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■自主点検内容の財団事務局との情報共有	実施	実施		・記載通りに実施				
	□清掃状況の点検	毎日1回	毎日1回	B					
4 小破修繕の着実な実行	■管理区域内の植栽 必要により剪定	実施	実施			・記載通りに実施(臨時休館中を除く)			
	■随時実施	随時実施	随時実施						
	□不具合早期発見のため自主点検実施回数(再掲)	月1回	月1回	B					
3 事故予防及び緊急時の対応	■修繕等の実施に際しての横浜市と情報共有し、迅速な対応の実施	実施	実施			・記載通りに実施(臨時休館中を除く) ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のためアルコール消毒と検温を入り口で実施し、館内で手を触れる場所20か所を一日4回消毒しました。さらに、正面玄関の開放・事務所の換気・展示に影響しない範囲の時間を決めて換気を行いました。 ・来館者には来館者カードの記入、検温、手指消毒の依頼をしています。			
	■修繕実績をホームページやSNSで発信	実施	実施						
	■施設運営に支障がでないよう管理	実施	実施						
	■改定マニュアルを整備し共有	実施	実施						
	□館内巡回 回数	1日4回	1日4回	B					
	■アルコール消毒液と石鹸の備え置き	実施	実施						
4 防災に対する取組	■緊急連絡網の備え置き	実施	実施		【成果】 ・再開後は新型コロナウイルス感染症対策を、横浜市文化施設ガイドラインおよび博物館ガイドラインに則り、着実に実施しました。  【課題】 ・非常時の避難誘導や救護にも、感染予防対策が必要です				
	■スタッフ全員が研修受講済みの状態	実施	実施						
	■改定マニュアルを整備し共有(再掲)	実施	実施						
6 (2)避難訓練 自衛消防組織の結成、防災計画の作成、危機管理マニュアルに基づく年2回の避難訓練の実施	□防災訓練 実施回数	年2回	年2回	B					
	■備蓄管理	実施	実施						
	■改定マニュアルを整備し共有(再掲)	実施	実施						
6 (3)緊急事態に備えた飲料水、非常食、毛布等の備蓄	■備蓄管理	実施	実施						
	■改定マニュアルを整備し共有(再掲)	実施	実施						

V収支	評価項目 指定管理者提案(要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	適切な収支構造及び収支バランス	■緊急性・必要性の高い事案から執行 ■収支計画に準じて、適切な収支管理を行う	実施	実施		・記載通りに実施  ・新型コロナウイルス感染症に関する文化庁の助成金獲得のほか、次年度事業に対する民間助成申請の準備を進めました。	【成果】 ・計画以上の企業協賛金および寄付金が獲得できました。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する文化庁の助成金を獲得し、消毒用品やアクリル板などの備品を購入しました。  【課題】 ・一年で一番来館者が多い4、5月に臨時休館があったこと、またねご写真展時期の緊急事態宣言などの影響により、港の見える丘公園への来園者が減少し、グッズの売れ行きは目標を大きく下回りました。難しい状況ではありましたが、仕入れを調整し収支のバランスを取りました。	【評価できる点】 ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。 ・計画以上の企業協賛金及び寄付金を獲得した点について評価します。 【より一層の取組を期待する点】 ・臨時休館や新型コロナウイルス感染症がありました。収支差額に大きなマイナスは発生しませんでした。今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
		■助成金獲得	実施	実施				
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	指定管理料のみに依存しない収入確保の取組 (1) 利用料金収入の確保 有料入館者増に向けた取組の実施	■「大佛次郎×ねご写真展2021」の開催による冬季有料入館者増	実施	実施		・1/7-3/21緊急事態宣言により冬季の積極的な来館の呼びかけが難しい状況となりました。 ・おさざぎ選書の広告料は目標どおり5社・95,000円を獲得  ・テーマ展示にかかる企業協賛2件、個人からの寄付1件 ・ウォーキングへの寄付1件 (ねご写真展の賞品現物協賛6社)	【課題】 ・一年で一番来館者が多い4、5月に臨時休館があったこと、またねご写真展時期の緊急事態宣言などの影響により、港の見える丘公園への来園者が減少し、グッズの売れ行きは目標を大きく下回りました。難しい状況ではありましたが、仕入れを調整し収支のバランスを取りました。	【評価できる点】 ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。 ・計画以上の企業協賛金及び寄付金を獲得した点について評価します。 【より一層の取組を期待する点】 ・臨時休館や新型コロナウイルス感染症がありました。収支差額に大きなマイナスは発生しませんでした。今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
	(2)おさざぎ選書への広告掲載、企画展の協賛	□有料広告掲載	5社	5社	B			
	(3)企画展への協賛依頼、助成金への積極的な応募	■助成金獲得(再掲) □協賛・寄附件数	1件	4件	A			
	(4)ショップ売上目標の設定	□目標金額	2,000,000円	622,134円	-			
3 経費削減及び効率的運営努力	経費削減等効果的運営の努力 (1)発注、事務処理上の留意点 契約にかかる経費削減、支払い時の事務処理時間及び振込手数料の削減、計画的な発送処理による作業時間及び郵送経費の削減、廃棄物の削減  (2)施設、設備管理上の留意点 早期対応による設備の長寿命化の実現と修繕費の節制 省エネルギーのための取組と光熱費の削減(管理費の多くを占めている光熱水費を節約することで、コストの削減につなげる)  (3)コスト意識 職員の超過勤務削減、業務分担の平準化、業務の外注化等の促進、効率的で適切な勤務体制の実施	■適正な在庫管理	実施	実施		・記載通りに実施  ・来館者数に比例して電気・水道ともに利用量が減少しました。  ・臨時休館中は出勤人数を1名にし、在宅勤務を導入  ・記載通りに実施	【課題】 ・臨時休館時に在宅勤務を導入しましたが、データアクセスが出来ず、効率的な作業がしにくかった点があります。財団事務局とも相談の上、将来的には自宅からの安全なサーバアクセスを視野に入れた対応を検討します。	【評価できる点】 ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。 ・計画以上の企業協賛金及び寄付金を獲得した点について評価します。 【より一層の取組を期待する点】 ・臨時休館や新型コロナウイルス感染症がありました。収支差額に大きなマイナスは発生しませんでした。今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
		■節電・節水の意識 (指標:使用量前年度比)	実施	実施				
		■労務管理を適切に行い、超勤時間の削減を図る	実施	実施				
		■労基法に則った有給取得の促進	実施	実施				
		■経費執行状況について情報共有	実施	実施				
その他	評価項目 特記(提案事項要旨)	R2年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	チェック		自己評価	行政評価
	PDCAサイクルの確実な運用	日報及び月間事業報告書 業務計画書及び業務報告書 業務評価(モニタリング、自己評価、第三者による評価)	実施	実施		記載通りに実施		

総括	評価項目 特記(提案事項要旨)	R2年度計画 達成指標	実施状況 説明	チェック	実施状況 説明	評価	
						自己評価	行政評価
						<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府および横浜市の方針を受け令和2年2月29日から5月31日まで臨時休館とし、再開後も外出・観光・集会マインドの冷え込みや50%定員制限、その後令和3年1月からの緊急事態宣言再発出により、入館者数・施設利用率および収支に非常に大きな影響がありました。6月再開館から9月末までの上半期入館者数は対前年度15%と極めて低い水準となり、10月以降は文化活動の再開の動きがありましたが、1月に緊急事態宣言再発出と感染の第3波により、年間入館者数の累計は10,627人となり、前年度比△14,966人と落ち込みました。なお、ポリュームゾーンであった65歳以上の市内在住者で観覧無料となる層が減ったことで、観覧者における有料率は66%と高くなっています。施設利用については外出控え・集合回避により、会議室・和室ともに利用率が大きく減少しました。「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」および「図書館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に則り、感染予防を第一として、開館中は1日4回・約20か所の館内消毒作業を行いました。</p> <p>【文化事業について】 令和元年度のテーマ展示Ⅲ「誕生！鞍馬天狗 みんなのHEROができるまで」開催中に臨時休館となり、さらに4月の緊急事態宣言等により次回展の十分な展示準備ができなかったため、6月再開館後の9月まで会期を延長しました。 秋からのテーマ展示「大佛次郎の住まいをめぐるヒストリー 鎌倉そして横浜」では、横浜生まれの作家の住まいの変遷を作品と重ねてたどり、終着点たる記念館に込められた思いを伝え、更に山手113番の隠れたヒストリーを掘り起こして展示に加えました。建築に興味を持つ新しい層の来館者がありました。展示に合わせて職員考案の「たてもの謎解き『ねこからの招待状』」を来館者へ配布し、今人気の謎解きから記念館を知ってもらおう仕掛けが好評でした。 大佛夫人と愛猫にスポットを当て紹介するテーマ展示「コンとコト 大佛夫人と白猫ものがたり」は、当初テーマ展示Ⅰとして4月から開催予定でしたが、時期を1月開始に変更しました。「大佛次郎×ねこ写真展2021」と同時開催で『全館ねこ尽くし』の企画とし、猫好きの来館を誘致しました。ねこ写真展については、人気投票をWEB(インスタグラム、Facebook、Twitter)でも受付ました。 文学館ならではの事業として、小学生向けミニ・ビブリオバトルに加え、中高生対象オンラインビブリオバトル、ツアー・ビブリオとの共催で一般対象ビブリオバトルを初めて開催しました。特に中高生ビブリオバトルは全国から参加があり、文学館らしさを発揮できる、今後可能性が見える催しとなりました。 感染予防で人が集えない状況を考慮し、SNSでの発信をさらに強化しました。夏にインスタグラムをスタートさせ、建物の魅力や日常の風景、公園の草花を中心に積極発信しています。SNSの短文性を活かし、臨時休館期間中から日付にあわせて「敗戦日記」をツイートしていく試みが好評でした。 さらに、出版が難しい中でも、大佛次郎の未刊行日記の出版に向け具体的に動き始めています。</p> <p>【地域との連携について】 地域の教育機関や企業・周辺施設との継続的な連携については、対面でのイベントや人が集うことを回避する状況の中で進めることが難しい年でした。その中で北方小学校でのデモ・ビブリオバトル実施、浅野学園等との中高生ビブリオバトルでの連携、山手アーカイブとの協力、元町・香炉庵との和菓子教室の共同開催のスタートは、大きな力となりました。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、数か月間にわたる全館休館や感染症対策を講じながらの運営となりました。 開館以来初となることの連続でしたが、文学館という施設の特性を考慮した対応や、状況に合わせた企画の実施が、安定した施設運営につながりました。</p> <p>文化事業においては、ウェブブログやSNSを通じた情報発信、YouTubeでの展示解説公開などによりウェブ上での利用者へのコンタクトツールを充実させた点を評価します。施設に足を運ぶことができないう状況を新たな層へのアプローチを加速させる契機と捉え、積極的に取り組みました。</p> <p>また、コロナ禍において手段が非常に限られたなか、地域との連携を継続した点を評価します。関係者と検討を重ね、ビブリオバトルのオンライン開催など、社会の要請に沿った対応をしました。</p> <p>施設運営・管理においては、持続可能な施設運営に取り組んだ点を評価します。臨時休館期間中に不具合箇所の点検を行い円滑な修繕実施に活かすなど、イレギュラーな状況だからこそできることをスタッフ全体で検討し、実施しました。</p> <p>次年度も、新型コロナウイルス感染症に係る影響が続き、対策を講じながらの運営となることが想定されます。公共施設として利用者の方の安全への配慮など適切な対応を行うとともに、状況に合わせた柔軟な企画等を実施してください。大佛という作家の魅力をもっと多くの人に伝え、後世に残していくという施設の使命に資する取組に期待します。</p>

総括	評価項目 特記(提案事項要旨)	R2年度計画 達成指標	実施状況		実施状況 説明	評価		
			説明	チェック		自己評価	行政評価	
						<p>【管理・運営について】                      観覧者数の減少は観覧料収入・ショップの売上減、施設貸出の不調は利用料金の減少となっています。感染症予防対策のため空気清浄機やアルコール消毒液等の支出があり、その一部について文化庁の補助金を受けました。                      施設利用についても、状況は厳しいながらもフォトウェディングや撮影利用など特徴的な利用があり、今後も可能性がある分野と考えます。                      開館から40年以上が経ち、経年劣化への目配りと対応が常に必要な状況にあります。令和2年度は2階窓回り改修工事が横浜市により実施されたほか、経年劣化で使用に危険が生じた設備の更新と、照明のLED化を集中して行いました。臨時休館期間に不具合箇所の点検を行い、工事を進めることができました。</p>		